

左翼の手引書

田嶋陽子女史擁護論

SHOSAKU 事務所 代表
花房 尚作

E-mail : info@sho39.com



私はこの場で田嶋陽子女史を強く擁護しておく。

なぜなら田嶋陽子女史への批判が余りにも多すぎる。みなさんは田嶋陽子女史を動物のカバかなにかと勘違いしているのではないだろうか。田嶋陽子女史は元大学教授であり、元参議院議員であり、フェミニスト運動家としての権威である。その田嶋陽子女史に対して、みなさんはまるで動物のカバのように扱っている。まったくもって非礼極まりない所業といえる。

良い大人が揃いも揃って田嶋女史を批判している様は、社会人としての品格に欠けている。この所業は強く反省するべきものである。

そもそも、いわゆる従軍慰安婦にせよ、いわゆる南京大虐殺にせよ、その怪しげな信憑性に田嶋陽子女史も薄々気が付いている。様々な方面から事実証拠を提示され、論破されまくって説得されている。ただし、どれほど説得されようとも、納得していないだけである。ここで納得してしまったら、元大学教授であり、元参議院議員であり、フェミニスト運動家としての、これまでの活動が台無しになってしまう。田嶋陽子女史はこれまでやってきたことが、みもふたもなくなることに耐えられないのだ。

人は誰しも自分のキャリアを否定できない。無意識のなかで自分のキャリアを守り抜こうとする。それは人間である限り、ほとんどの者がそうだ。田嶋陽子女史を批判している保守派の者たちも、左翼思想が世間の空気を牛耳っていた高度成長期は鳴りを潜めていた。その空気が保守に傾いたとたん、猫も杓子も保守を気取って前面に出てくるようになった。

結局のところ、無意識のなかで自分のキャリアを守り抜こうとしている田嶋陽子女史と同じである。ひとつのイデオロギーに染まっている時点で、左巻き論者も、右巻き論者も、所詮は同じ穴のムジナである。

左翼の頭を叩いてみれば全体主義の音がする。右翼の頭を叩いてみても全体主義の音がする。

左翼の頭を叩いてみれば原理主義の音がする。右翼の頭を叩いてみても原理主義の音がする。

左翼の頭を叩いてみればご都合主義の音がする。右翼の頭を叩いてみてもご都合主義の音がする。

左翼も右翼もしょせんは同じ音がする。

田嶋陽子女史は知的であり、とてもプライドの高い女性である。男性に負けるものかと、これまで意地を貫き通して生きてきた。そのような自分がとても大好きで、そのような自分をとても尊敬している。そうでなければ、歌手でもないのにリサイタルなど開かないだろう。つまり田嶋陽子女史は自意識が過剰に高くなったヒーローのようなものである。かつての日本を悪者に仕立て上げることで、弱者の見方を装っているに過ぎないのである。ヒーローを気取ることで自己肯定感を得ており、これまでの自らの誤りを無意識のうちにうやむやにしている。

結局のところ、田嶋陽子女史は、自分のことしか考えていないカバなのだ。だから動物のカバが喋っていると思っていれば良いのである。批判なんかせずに、物珍しい喋るカバを見ていると思っていれば良いのである。カバが喋る姿などそうそう見られるものではない。大人が揃いも揃って喋るカバの批判をしている様は、社会人としての品格に欠けている。この所業は強く反省すべきものである。私はこの場で田嶋陽子女史を擁護しておく。

Profile 花房 尚作（はなふさ しょうさく）

現職 SHOSAKU 事務所代表

学歴 放送大学大学院修士課程

専攻 文化人類学

資格 1級ファイナンシャルプランニング技能士 CFP®

宅地建物取引士 管理業務主任者 マンション管理士

著書 価値観の多様性はなぜ認められないのか（2019年日本橋出版）

